

よくある質問 FAQ

Q 大学院／都市情報学研究科に進学するメリットは何ですか

関心のある研究テーマを思い切り考究し、主体的に学び続ける力、専門家としての資質を身に付けることがあります。大学院の研究では、新規性・オリジナリティ、論理性、方法論・データの適切性、結論の有用性等が問われます。関心あるテーマについて初めての発見を生み出す醍醐味があります。これらの研究経験は専門職・研究職としての就職の可能性を広げます。

都市情報学研究科では、都市や地域社会をフィールドにその政策課題を理解し、政策・事業・サービスを情報数理・データサイエンス・AIなどの手法を用いて立案・評価する専門的なスキルを身に付けることができます。

社会は急速に変化しています。「人生100年時代」と呼ばれる今日、自ら主体的に学び続け、変化に対応できる資質を身に付けることは現代を生きる皆さんにとって大切です。大学院での学修はそうした機会となるでしょう。

Q 大学院での経済的負担はどのようなものでしょうか

学費と奨学生の制度(p.10)に示すように、大学院の授業料は学部授業と比べて割安に設定されています。日本学生支援機構の奨学生となれば、奨学生で授業料を賄うことができます。そのほか、都市情報学研究科からも奨学生や研究費予算が提供されます。ティーチング・アシスタントとして学部演習の補助を行えばアルバイト収入を得ることができます。学内進学生の場合は本学奨学生として入学金相当分の奨学生が給付されます。こうした多様な経済支援により、学業に専念しやすい環境を整えています。

Q 卒業生の主な就職先を教えてください

製造業や情報系企業を中心に幅広い分野・業界へ就職しております。

例: 株式会社アイシン、CKD株式会社、株式会社湯山製作所、株式会社東海理化電機製作所、株式会社くろがね工作室、デンソーテクノ株式会社、株式会社NTTデータMHIシステムズ、株式会社アウトソーシングテクノロジー、富士フィルムソフトウェア株式会社、イオンピッギ株式会社、ゲンキー株式会社、名城大学(博士課程修了後)、松山大学(博士課程修了後)、学校法人藤田学園、日本赤十字社、前田建設工業株式会社、西山クレーン、大垣市役所、韓国国情報公社(政府系公団)他(順不同)

入試について (修士課程)* *About Admissions*

● 推薦入試

試験区分	出願期間	試験日	合格発表
一次	5月中旬頃	7月上旬	7月末
二次	8月下旬～9月上旬	9月末	10月中旬
三次	12月下旬～1月上旬	1月下旬	2月中旬

出願資格:

- ① 本学都市情報学部の4年次に在学し、志望専修分野に対する勉学・研究に意欲があり、指導教員または学部長の推薦により、学部長の承認が得られる者。
- ② 学業成績の学年席次が上位1／3以内(ただし、3年次後期・4年次前期、いずれかの終了時点)

選考方法: 提出された書類(志願書・推薦書・出願書類)の審査および面接試験

Q 研究室・指導教員の決め方について教えてください

【内部進学希望者の方】

学部の研究室・指導教員が大学院指導担当教員の場合は、大学院でも継続して研究指導が受けられます(大学院担当指導教員でない場合でも、学部指導教員と相談して大学院での指導教員を決定することができます)。

大学院では学部と異なる研究室・指導教員を希望することも可能です。大学院での研究テーマや学びたい専門スキルを決め、大学院教員リストの中から指導を受けたい教員を選び、当該教員と大学院進学について相談して下さい。

【他学部・他大学・社会人からの進学希望者の方】

都市情報学は文理融合の幅広い学問領域をカバーしています。大学院での研究テーマや学びたい専門スキルを決め、大学院教員リストの中から最も適当な研究室・教員を選んだうえで、都市情報学部事務室に相談していただければ、当該教員をご紹介いたします。事前面談を通じて関心テーマについて研究指導が受けられるか確認して下さい。

Q 入学試験と過去の入試問題について教えてください

面接試験は全ての入試種別にありますが、筆記試験は一般入試と外国人入試のみにあります。

筆記試験は小論文と外国語(英語)試験から構成されます。小論文は、9分野(経済・経営・財政・行政・地域計画・開発・環境・情報・数理)の中から受験生が希望する分野を1つ選択して解答することができます。従って、これらの分野のいずれかを学んでいれば、他学部・他大学の学生でも小論文試験を受けやすくなっています。外国語は英文和訳と文法・英作文に関するものが中心です。過去の入試問題は、都市情報学部事務室の窓口で閲覧可能です。

推薦入試では面接試験、社会人入試では口述試験が課せられます。志望動機や大学院での研究計画などについての質問がなされます。

● 一般・外国人・社会人 入試

試験区分	出願期間	試験日	合格発表
一次	5月中旬頃	7月上旬	7月末
二次	8月下旬～9月上旬	9月末	10月中旬

選考方法:

〈一般・外国人〉

筆記試験(小論文・外国語(英語))および面接試験

小論文は9つの試験分野(科目)の中から1つの分野を選択し、都市情報学に関する基礎的知識と学力を問います。外国語試験は、辞書の持込を可とします(ただし、電子辞書類は不可)。

〈社会人〉

口述試験(「志願理由書」「研究計画書」に基づき試問します)

*博士後期課程入試を含む入試に関する詳しい情報は、名城大学入学サイトをご確認ください。



お問い合わせ・申請書類の提出先

461-8534 名古屋市東区矢田南4-102-9 名城大学 ナゴヤドーム前キャンパス
都市情報学部事務室 (toshi-office@ccml.meijo-u.ac.jp)

Copyright © Meijo University Faculty of Urban Science



名城大学大学院
都市情報学研究科

Graduate School of Urban Science, Meijo University





MESSAGE

研究科長メッセージ

本研究科の理念や教育、研究への想いについて、研究科長よりメッセージをお届けします。

都市情報学研究科長
西野 隆典

理想的な都市社会の創造を目指す、都市情報学の研究科

都市情報学研究科は、都市・情報・社会といった現代を象徴するテーマに対して学際的かつ実践的にアプローチすることを目的に開設された「都市情報学を究める研究科」です。「社会システム学」と「都市創造学」の2分野があり、いずれも都市を取り巻く複雑な課題に対して、柔軟かつ論理的に対応する力を養うことを重視しています。

学際的な学びの中で、異分野の知を取り入れる

本研究科には、幅広い専門分野を持つ教員が在籍しています。学生は複数の教員から専門的な助言を受け、自らの研究テーマを深めることができます。研究活動を通じて、他分野の視点を取り入れる力だけでなく、自分の研究をわかりやすく論理的に伝える力が養成されます。これらの力は、大学院修了後に多様な立場の人と協働する上でも大きな武器となります。

講義は少人数のゼミ形式で開講されており、教員とのディスカッションによって理解を深めていくことができます。また、大学院自習室やゼミ室など、研究に没頭できる環境が完備され、研究を進めていくためのき

め細やかなサポートが受けられる環境も整っています。一方で、主体的に研究を進める姿勢が求められ、学生自身の探究心や意欲が研究の質を大きく左右します。学生一人ひとりの真摯な取り組みは、学会発表や数々の受賞実績など、成果として結実しています。

高度な専門性と社会的視野を育てる修士課程・博士後期課程

修士課程修了生は、メーカー、情報サービス業、公務員など、理系・文系を問わず幅広い分野で活躍しています。都市情報学で培われる論理的思考力やプレゼン力といった汎用的スキルは、多様なキャリアで高く評価されています。また、博士後期課程へ進んだ学生は、学術研究機関などでも活躍しています。

大学院は単なるステップアップではなく、これから的人生をより豊かに設計していくための重要な期間です。どのようなバックグラウンドを持つ学生であっても、自分の意思次第で実りある時間にできると思います。理想の都市を構想し、論理的に分析する力を育みながら、社会との確かなつながりを築いていく、そんな未来志向の探究心を、この場で思う存分育てていってください。



カリキュラムの概要

社会システム学は総合政策、都市政策、情報数理の3領域のカリキュラムで構成されています。総合政策と都市政策では、国際関係学、公共政策学、経営理論と経営情報、労働政策、社会資本政策と評価などのテーマの理解を深めることができます。情報数理では、こうした政策領域の分析ツールとして数理モデルで記述する能力、確率過程の理論と応用、情報数理の基本的知識と技術、サービスサイエンスへの応用などを学習します。

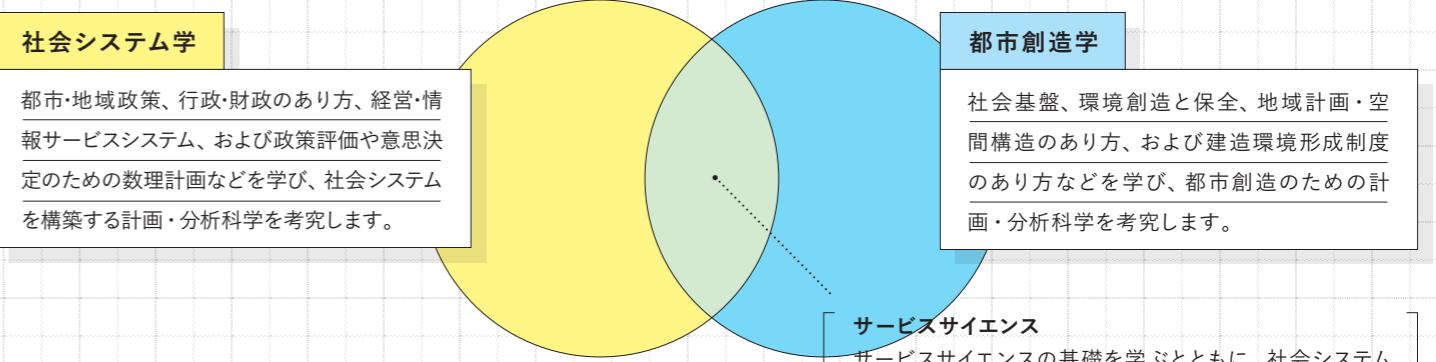
都市創造学は、総合環境、都市基盤、情報基盤の3領域のカリキュラムで構成されています。総合環境、都市基盤では、自然災害と防災・リスクマネジメント、エコロジカルな地域づくり、都市水環境整備と治水、比較都市環境学、建造環境への市民や子供の関心を高めるアウトリーチ論など、都市の物理・空間的な環境創造とマネジメントについて理解を深めます。情報基盤では都市問題解決や環境創造に係るコンピュータシミュレーション、数理モデルとオペレーションリサーチ、景観や音環境分析について学修します。

この二つの専修分野の共通領域がサービスサイエンスです。ここでは住環境・都市サービス・観光などの各領域の機構理解やサービスの評価、保健・医療・福祉領域における医療情報システムの有用性について議論し、サービスサイエンスの基礎やその応用について理解を深めます。

Curriculum Overview

教育研究の特徴とカリキュラム：2つの専修分野

本研究科では「社会システム学専修分野」と「都市創造学専修分野」の両分野で、サービスを民と公の立場で設計・評価するため、サービスサイエンスの総論や応用展開科目を導入しています。



カリキュラム

専修分野	修士課程	博士後期課程
社会システム学	総合政策…総合政策特論Ⅰ・Ⅱ／都市政策…都市政策特論Ⅰ・Ⅱ 情報数理…情報数理特論Ⅰ・Ⅱ サービスサイエンス…サービスサイエンス特論Ⅰ・Ⅱ（共通科目） 社会システム学特別研究Ⅰ～Ⅳ	総合政策…総合政策特講／都市政策…都市政策特講 情報数理…情報数理特講 社会情報システム学特殊研究Ⅰ～Ⅳ 人間情報システム学特殊研究Ⅰ～Ⅳ
都市創造学	総合環境…総合環境特論Ⅰ・Ⅱ／都市基盤…都市基盤特論Ⅰ・Ⅱ 情報基盤…情報基盤特論Ⅰ・Ⅱ サービスサイエンス…サービスサイエンス特論Ⅰ・Ⅱ（共通科目） 都市創造学特別研究Ⅰ～Ⅳ	総合環境…総合環境特講／都市基盤…都市基盤特講 情報基盤…情報基盤特講 社会基盤創造学特殊研究Ⅰ～Ⅳ 都市環境創造学特殊研究Ⅰ～Ⅳ

修了要件

科目種別	修士課程修了基準単位	博士後期課程修了基準単位
講義科目／少人数のゼミ形式の双方向型授業	指導教員の授業科目（専修科目）を含む11科目22単位以上 ただし、所属専修分野科目群から6科目12単位以上	指導教員の授業科目（専修科目）を含む2科目4単位以上
特別研究 研究指導科目	指導教員の授業科目（専修科目）4科目8単位	指導教員の授業科目（専修科目）6科目12単位
合計	30単位以上	16単位以上 ※単位取得の他に博士論文の審査で合格する必要があります

研究科での学びの紹介

Faculty and Course Introduction

Data.1



「災害リスク」と 「レジリエンス」から 都市の未来を描く

柄谷 友香 教授

専門分野 都市防災計画、
リスク・コミュニケーション

Q 先生の専門分野について教えてください。

私の専門は、都市の防災・減災計画です。災害という突発的で深刻な出来事から「元に戻す」だけではなく、困難を乗り越えて新しい価値を築いていく力（＝レジリエンス）をテーマに、人とまちのあり方を問い合わせ直し研究を進めています。災害による移転先の新たなリスク（例えば土砂災害など）を地理情報システムによって可視化する、被災者の声をAIによって分析し、世代ごとに必要な支援をつなげるなど、多様な情報技術を活用した問題解決を目指しています。

Q 都市情報学研究科では、
どんな学びや研究を深めることができますか。

本研究科の魅力は、工学、情報学、経済学といった異なる分野を横断

し、複雑な社会課題に多角的にアプローチできる点です。災害復興の現場では、研究者だけでなく行政職員や技術者、住民など多様な立場の人々と協働する必要があります。そこで重要なのが、幅広い人と分野をつなぐ「リスクコミュニケーション」。私自身も、中立的な立場で異なる利害関係者をつなぎ、合意形成の橋渡しを行う研究者としての役割を意識しています。こうした姿勢やスキルは、都市情報学における重要な資質であり、学びを通して養ってほしいと考えています。

Q 院生に期待していることは。

大学院では、知識を得ること以上に「自ら問い合わせを立て、仮説を検証し、社会に向けて提案する」姿勢が求められます。まずは自分の研究に責任と誇りを持ち、自分の言葉で語れるようになってほしいと思います。特に災害研究では、正解のない問い合わせ合い続ける粘り強さが必要です。研究は時に困難で、なかなか解決の糸口が見えないこともありますが、それでも「面白い」「もっと知りたい」と思える知的好奇心こそが、研究を続ける原動力だと思います。

将来、公務員として地域に関わる道もあれば、研究者として社会課題に挑み続ける道もあります。研究科での数年間は、社会に貢献できる「自分らしい専門性」を築くうえで、大きな力になるはずです。

深い探究と実践が、ここからはじまる。

大学院での学びを支える多彩な授業と教員陣。

Data.3



地域 × データ 未来の都市を 想像する学び

大野 沙知子 准教授

専門分野 地域計画、
データサイエンス

Q 先生の専門分野について教えてください。

地域計画や土木計画の分野を軸に、都市の中に存在する多様な課題に対して、現場の視点と理論の両面からアプローチする研究を行っています。

Q 研究科で担当されている授業内容について教えてください。

これまでには、学内にあるエレベーターの混雑緩和を題材に、利用者と管理者の双方の視点に立って改善のアイデアを考える演習などを行いました。都市計画やサービスのあり方を、学生自身が直面している身近な問題として捉えることで、「計画とは何のためにあるのか」「人の行動と空間をどう捉えるのか」といった本質的な問い合わせになると思います。また、複数の立場から物事を見ること、データを根拠にしながら提案を組み立てていくことを大切にしています。

学生たちが主体的に考え、対話を通じて学びを深められるよう、授業の設計にも工夫を凝らしています。

Q 大学院での指導や学びの特徴を教えてください。

大学院では、学生の自律性を尊重しながら、それぞれの関心や目的に合わせた柔軟な指導を行っています。研究テーマの設定から、文献の読み込み、現地調査、分析、成果の発信まで、丁寧に伴走する姿勢を大切にしています。自分の興味と社会の課題をどうつなげていくか、自ら問い合わせを立てられる力が求められます。

また、異なる分野と連携した研究にも力を入れています。都市情報学研究科にはさまざまな先生が在籍しています。土木、政策、データ分析などの知見を融合し、多面向に課題を捉えることで、研究の広がりと深まりが生まれていきます。

Q 学生への期待やメッセージをお願いします。

はじめから明確なテーマがなくても構いません。迷いながらでも、自分の中にある関心を言葉にし、問い合わせをして立ち上げていく過程そのものが、研究を豊かにしてくれると思います。都市情報学は、現実の課題と結びつきやすく、社会に貢献できる力を育む学問です。ぜひ自分なりの切り口を見つけて、学びの時間を楽しんでくださいね。

Data.2



自然(理)と社会(文) の境界にある環境問題

森杉 雅史 教授

専門分野 環境経済分析

Q 先生の専門分野について教えてください。

地球温暖化をはじめとする環境問題を中心に、公共政策における評価手法や適応策の研究を進めています。特に、海面上昇による砂浜の侵食や、降雪量減少によるスキー産業への影響といった、温暖化が社会経済にもたらす影響を数量的に把握し、それに対してどのような対策が有効かを検討する、地球温暖化の適応策の研究に力を入れています。

Q 専門分野に絡めて、都市情報学研究科での学びについて教えてください。

私自身は経済学修士、工学博士という経歴ということもあり、大野栄治先生（土木計画学、プロジェクト評価）、森龍太先生（観光学、観光動態、環境経済評価）と共同研究することが多く、環境評価、社会

経済問題、交通問題などあらゆる分野を横断し、産業関連表を用いたマクロ経済レベルでの緩和策分析も手掛けています。気象データをそのまま社会経済モデルに組み込む手法は従来あまり行われておらず、その考え方自体が独自性を持っています。「環境」は、文理融合の分野かつ複数領域をまたがってくるため、ビギナーでも新しい視点で研究がしやすいと思っています。

Q 大学院では、どのような学び方ができますか。

大学院では、学生一人ひとりの研究テーマに寄り添いながら、マンツーマンに近い丁寧な指導を行っています。異なる分野の学生が集う中で、多様な視点から環境・社会課題に向き合う力を育むことを重視しています。在学中の学会発表を目指して、実践的なプレゼンテーション能力や研究遂行力を徹底して鍛えます。

Q 院生に期待していることは。

将来公務員を志す人にとっても、大学院での学びは大きな意味を持ちます。たとえば、都市計画や環境評価のスキルを修得したうえで試験に臨むといった、実務と研究のハイブリッドな進路も現実的な選択肢のひとつです。学びを就職活動に生かすのではなく「社会にどう貢献できる人材になるか」という視点で院生生活を過ごしてほしいと願っています。

Data.4



理解可能な人工知能から 信頼可能な人工知能へ

水野 隆文 教授

専門分野 知能情報システム工学

Q 先生の専門分野について教えてください。

人工知能の分野、特に「ディープラーニング」と「記号処理」という2つの系統を扱っています。ディープラーニングは非常に高い実用性を持っていますが、内部の演算プロセスがブラックボックスで分かりにくいという側面があります。一方記号処理は、人間の論理に近い仕組みで構成されており、処理の過程を説明しやすい特徴があります。現在は、この2つのアプローチを融合させた「説明可能なAI(XAI)」の実現に向けて研究を進めています。情報を整理し、関係づけ、図解することで、計算機にも人間にもわかりやすい知識表現を構築する手法を探っています。

Q 都市情報学研究科での学びについて教えてください。

人工知能は今や、都市や社会のインフラに深く関わる技術です。だからこそ、情報工学やAIに関心がある学生はもちろん、都市や人の流れ、デザインや社会課題に関心のある学生にも、AIの視点を持つことは大きな武器になります。本研究科には、AIや画像処理、都市開発など異なる分野を研究する学生が集まり、それぞれ専門の教員が在籍しています。都市情報という複合的なテーマだからこそ、多様な視点からAIの活用可能性を探っていくのが最大の魅力だと思っています。

Q 院生に期待していることは。

自分の興味や問い合わせを深く掘り下げられる貴重な時間です。将来、AIを使って何かをしたい、社会の中で活用したいと考えている人にこそ、プロとして技術の中身まで理解しようとする姿勢を大切にしてほしいと思っています。トラックの運転手がエンジンの仕組みや違いに詳しいのと同じように、AIという道具を使うプロフェッショナルとして、その仕組みを理解することが大切です。奥深く研究に潜ると、自分自身がどう考えているのか、何を面白いと思うのか、という視点も広がってきます。研究科での学びは、社会に出てからの選択肢を広げ、自信を持って自分の意見を伝えられる力につながると思います。

専任教員と研究テーマ

Full-time Faculty and Research Areas

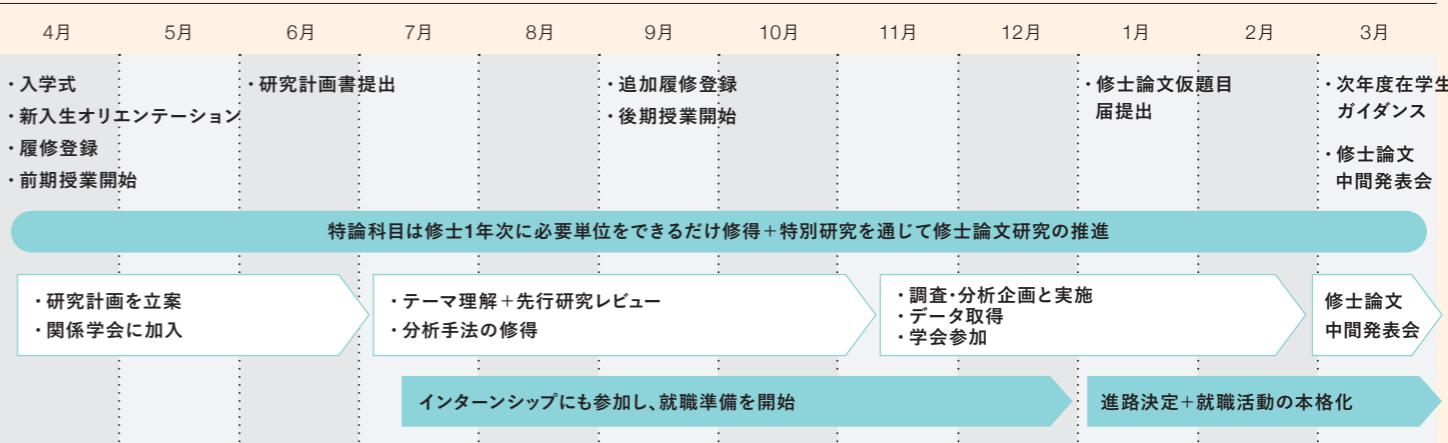
※2025年12月現在（ただし*は2026年度～）
※[修士]、[博士]は副指導担当を示す

稻葉 千晴 社会システム学／総合政策／修士・博士 国際政治史、日露関係史、北欧現代政治、情報と国際通信	柄谷 友香 都市創造学／総合環境／修士・博士 防災・減災社会の実現に向けたひと・まちづくり 広域巨大災害からの被災地の復旧・復興プロセスの解明
手嶋 正章 社会システム学／総合政策／修士 地域情報化政策に関する研究、地域政策とまちづくり、財政問題と政策論	森杉 雅史 都市創造学／総合環境／修士・博士 地球温暖化の被害や適応策の経済学的評価 再エネ・交通・観光・文化と地域経済
宮本 由紀 社会システム学／総合政策／修士・[博士] 子育て支援政策に関する実証分析	小池 聰 都市創造学／総合環境／修士・博士 農村地域政策の分析と評価
島田 康人 社会システム学／都市政策／修士・博士 顧客別収益性分析の進展、情報化と企業間関係の変化	張 昇平 都市創造学／総合環境／修士・博士 水資源開発計画と水資源管理、都市水環境システムの解析および制御、渴水と水供給の安定化
赤木 博文 社会システム学／都市政策／修士・博士 社会資本形成に関する理論的および実証分析、税制のあり方	福島 茂 都市創造学／都市基盤／修士・博士 社会経済環境の変容に対する都市計画・居住政策のあり方、グローバル経済における地域開発戦略、持続可能な地域づくり：Learning Region アプローチとコミュニティエンパワーメント
鎌田 繁則 社会システム学／都市政策／修士・博士 働き方改革における頸落（たいらく）の影響についての理論的実証的研究	杉浦 真一郎 都市創造学／都市基盤／修士・博士 地方行政に関する地理学的研究
宇野 隆 社会システム学／情報数理／修士・博士 確率多項式に関する研究、従属確率変数の極限定理に関する研究	若林 拓 都市創造学／都市基盤／修士・博士 交通システムの信頼性向上に関する研究、災害時の交通計画、道路案内標識の経路誘導効果の評価
水野 隆文 社会システム学／情報数理／修士・博士 AIシステムのレジリエンス、知識の単一化と一般化を行うアルゴリズムの開発、感性データの可視化	田口 純子 都市創造学／都市基盤／修士 建築・都市・まちに関する創造的学習、生涯学習（子ども教育、市民教育）、プロジェクトデザイン、ワークショップデザイン
鈴木 淳生 社会システム学／情報数理／修士・[博士] デリバティブの価格付け、都市のOR	西野 隆典 都市創造学／情報基盤／修士・博士 三次元音響の収録と再生に関する研究 音声・音響信号を用いた人間と機械とのインターフェースに関する研究
山谷 克 社会システム学／情報数理／修士・博士 画像や音楽に含まれる幾何学的特長を用いた効率の良い情報削減方法の考案	亀井 栄治 都市創造学／情報基盤／修士・博士 景観計画・環境デザインにおける分析・評価手法に関する研究
大野 栄治 社会システム学／サービスサイエンス／修士・博士 公共事業の費用便益分析、環境政策・観光政策の経済評価	杉浦 伸 都市創造学／情報基盤／修士・博士 数理的意思決定に関する理論的研究 オペレーションズ・リサーチ、応用数理による都市問題の分析
大野 沙知子 社会システム学／サービスサイエンス／修士 新たなモビリティの社会的形成に関する研究 地域協働型インフラ管理に関する研究 災害復興における支援のあり方に関する研究	鈴木 千文 都市創造学／都市基盤／[修士] 歌声の類似度評価に関する研究、歌手の個人性に関する研究
森 龍太 都市創造学／サービスサイエンス／修士*	伊東 嗣功 社会システム学／サービスサイエンス／修士*
観光資源の保全と開発 観光価値（レクリエーション価値）の計測・評価手法の開発 温暖化による観光地への影響と対策の検討・評価手法の開発	生体情報を利用した支援システムに関する研究 低覚醒度下における5感の性能評価に関する研究
川島 佑介 社会システム学／総合政策／修士*	
(地方自治体を含む)政府の仕組み、動き、政策に関する研究	

年間スケジュールとアクティビティモデル

Annual Schedule and Activity Model

修士1年



修士2年



大学院での学修・研究活動と環境

- 修士課程では授業は月曜日～水曜日に配当されており、週後半は研究に集中しやすくなっています。
- 1年次に必要な講義単位の大半を修得する院生が多く、修士2年では修士論文研究により重点が置かれるようになります。
- 都市情報学研究科には大学院自習室があり、個人的な研究スペースが与えられます。院生によってはゼミ室を研究拠点にしています。
- 多くの院生は学会に加入し、学会で最新の研究動向を把握したり、研究発表を目標にして修士論文研究を進めています。
- ティーチング・アシスタント (TA) として、コンピュータ演習等を補助。これは教育指導の経験にもなります。アルバイト代として90分2,400円が支払われます。



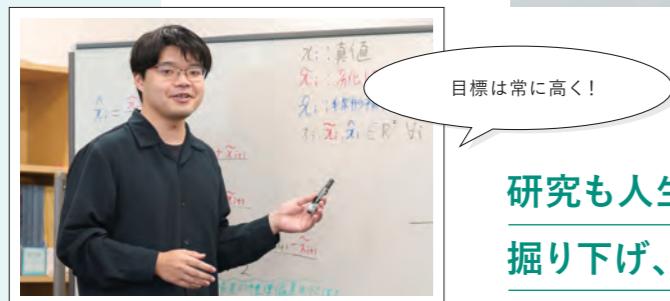
Interview

まだ足りない、だから進む。
失敗を、前進のきっかけにして。

STUDENT INTRODUCTION

01

中川 雅新さん

都市情報学研究科 修士課程2年
研究テーマ：デジタル画像処理

目標は常に高く！

研究も人生も、自分のペースで
掘り下げ、深めていく力を学ぶ場所。

VOICE.

1

学部4年で参加したシンガポール留学や国際学会での英語発表といった貴重な経験を通じて「自分にはまだ足りないことが多い、もっと成長したい」と感じ、大学院へ進学を決意しました。研究テーマは、デジタル画像処理のひとつである「ノイズ除去」の技術開発を行っています。機械学習を使う手法もありますが、僕の研究では主に数学的なアプローチを用いることで、リアルタイム性や画像の鮮明さを保ったまま処理

できる点を重視しています。

学部時代は「待っていれば教えてもらえる」学びが中心でしたが、大学院では自ら課題を見つけ、日々コツコツと深く掘り下げていく姿勢が求められます。指導教員の山谷先生をはじめ、先生方の距離が一層近くなり、日々の研究に没頭できる環境が整っているのはとてもありがたいです。山谷先生はよく、「人は失敗からしか学べない」とおっしゃいます。失敗しても落ち込まず冷静に振

り返って、次に活かす。失敗を乗り越えながら新たな発見や改善に結びつけられるその過程こそが、充実した研究生活の柱になっています。

今後は、名城大学の博士課程に進み、デジタル画像に関する高い専門性を身に着け、世界を舞台に新たな価値を創出できるリーダーを目指していきます。研究も人生も自分のペースで、失敗を大きな糧にしながら、納得のいく選択をし続けていきたいです。

中川さんの、とある一日

8:00	10:00	12:00	13:00	15:00	21:30	22:00	23:00
起床 朝食	大学へ	スポーツジムで 体を動かす	研究に集中	ゼミに出席	帰宅	食事・ リラックスタイム	就寝

point.1
TA（ティーチング・アシスタント）として、1年生の授業をサポートすることも。様々な先生の指導スタイルに触れることで、自分の視野が広がります。

point.2
週4~5回、大学近くのスポーツジムへ。自分のペースで運動する時間をつくることで気持ちがリセットされて、研究にも前向きに向き合えます。

point.3
尊敬している山谷先生から、院生チームへ指導やアドバイスをいただける環境。先生との一つひとつ対話が、研究の土台を支えてくれています。

point.4
ゼミに出席して学部生の発表を聞いたり、アドバイスをしたりも。学部生時代を思い出しながら、少しでも力になれたらという思いで関わっています。

画像処理について
研究しています



Fig. 6. Magnified comparison of enhanced image sections at QF=75.

Interview

データに“人の思い”を重ねる。
研究から見えた、学びのあり方。

STUDENT INTRODUCTION

02

岡 愛子さん

都市情報学研究科 修士課程1年
研究テーマ：知識表現

楽しく研究できる環境です！

知る楽しさが学びを深め、
未来の進路をひらいてくれる。

VOICE.
2

私の研究テーマは「言論を用いた知識表現とその拡張情報」です。データを扱う際、客観的な数値情報だけではなく、そこにある「人の思い」や「関係性」といった主観的な側面にも着目しています。具体的には、プロ野球の打率に、選手同士のつながりやチームワークがどう影響してくれるのかを探るアプローチです。こうした考え方方は、今後社会に出てからも応用がきくのではないかと思っています。

学部入学当初は、理系の分野に対する知識や関心はそれほど強くありませんでした。ただ、水野先生の授業で「知識をどう表現するか」という考え方方に触れたことでその面白さに気づき、次第に興味を持つようになりました。

研究科の授業は、少人数でのディスカッション形式が中心。先生との距離が近く、自分の意見を持って発言する力が身についたと感じています。現在は、研究と並行して就職活動にも取り

組んでいます。これまで学んできたことを、社会でどう活かしていくかを考える中で、都市や人の動きに関わる仕事、データを使った意思決定に関われるような分野に 관심を持ち始めました。

大学院での学びを通して、自分の意見を持てるようになったことは大きな成長だと感じています。これからも情報を扱うことの面白さを大切にしながら、研究にも仕事にも向き合っていきたいです。

トピックス

私が院に進んだ理由

小さな興味から始まる、大学院という選択

院卒の父から、大学院進学をずっと勧められていました。私自身は学部4年の段階ではまだ研究テーマなどは決まっていませんでしたが、学部の授業で出会った知識表現や人工知能の分野に興味を持ち、「もっと知りたい」「深く学んでみたい」と思うようになりました。それが進学の決め手になりました。大学院に進んだからといって、選択肢が狭まるではなく、むしろ広がっていく感覚があります。研究を通して自然と視野が広がり、自分の強みもわかってきます。就活でも、今取り組んでいる研究や考え方を伝えることができ、それが評価された実感もありました。



近年の修士・博士論文タイトル

Thesis Title

修士論文

- 地方鉄道のデータから見る経営に関する統計的分析
- 都道府県が行う働き方改革認定制度が企業の雇用環境の提供姿勢に与えた影響についての研究
- 空き店舗空間におけるシェアリング生成アプローチと運営－名古屋市商業機能再生モデル事業の評価－
- 都市景観における季節別の色彩特性に関する研究
- エネルギー・システム分析用産業連関表を用いた固定価格買取制度の影響分析
- 野球競技における打球音と打球弾道との関係的研究
- 筋肉疲労がもたらす音声と筋電の変化に関する研究
- 深層ニュートラルネットワークを用いた交通環境音識別の研究
- 声質変換手法を用いた自己聴取音声の生成と評価に関する研究
- 主成分分析に基づく残差周波数変換による画像再構成
- 病院・販売業者間における医療材料の物流調査分析に基づくGS1バーコード利活用に関する研究
- シリンジポンプの流量設定チェックを含めた安全管理システムに関する研究

博士論文

- DCTとHTの組み合わせ式直交変換の画像圧縮への応用
- 温暖化の諸影響に関する経済学的被害評価手法の開発と適応策の効果分析
- The Emergence of Peer-to-peer Accommodation in Bangkok and its Features and Impact on the Housing Market
- Inclusive Street Management for Street Food Vendors in Modernizing Bangkok, Thailand
- 重要度指標に着目した道路網の効率的な連結信頼性向上法

近年の受賞歴

受賞者	山田航輔さん（大学院都市情報学研究科都市情報学専攻修士課程2年、鈴木千文・西野隆典研究室）
受賞名	日本音響学会東海支部優秀発表賞
受賞日	2023年12月11日
受賞テーマ	野球の打球音データセットの構築と打球弾道の推定の検討

受賞者	福島 茂 教授（都市情報学部）、前田建設工業株式会社 矢嶋 祐貴さん（都市情報学研究科2017年修了生）
受賞名	日本計画行政学会 論文賞
受賞日	2022年9月9日
受賞テーマ	都市計画提案制度に対する自治体のスタンスと対応、協議型都市計画・開発のプラットフォームとしての課題と可能性

受賞者	供田豪さん（大学院都市情報研究科都市情報学専攻 博士後期課程3年 森杉雅史研究室）
受賞名	土木学会地球環境委員会地球環境論文奨励賞
受賞日	2022年9月2日
受賞テーマ	気候変動と砂浜消失による新潟県・石川県の海岸別経済的被害の推計

受賞者	野々山 大樹さん（大学院都市情報学研究科都市情報学専攻 修士課程2年、西野 隆典研究室）
受賞名	令和2年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 奨励賞
受賞日	2021年1月19日
受賞テーマ	音声変換により生成した自己音声の評価

学費と大学院奨学金制度

Tuition and Scholarship

都市情報学研究科学費

学年区分	修士課程	博士後期課程
入学金	130,000円	130,000円
1年次 学費	790,000円	790,000円
2年次 学費	790,000円	790,000円
3年次 学費	－	790,000円

大学院奨学金制度

奨学金区分	修士課程	博士後期課程
本学卒業生／補助奨学生	全員 130,000円（入学金相当額）	全員 130,000円（入学金相当額）
大学院奨学生	全員 80,000円／年	全員 140,000円／年
学業成績優秀奨学生	300,000円（成績優秀者若干名）	－
日本学生支援機構奨金 ※ (第一種：無利子)	月額50,000円／88,000円貸与 年最大 1,056,000円	月額80,000円／122,000円貸与 年最大 1,464,000円

※ 条件：修士課程は本人年収299万円以下、博士課程は本人年収340万円以下

研究費支給制度

- 修士課程・博士後期課程の院生には、1人あたり年間60,000円の研究費予算枠が確保されています。研究費予算は、指導教員の申請により学会発表や調査研究を行う際に発生する旅費・学会参加費や調査研究に必要な消耗品などの購入に活用できます。なお、学会に発表者として参加する場合は、40,000円を限度として追加支給しています。
- 博士後期課程の院生が海外学会にて研究発表を行う場合は、在学中1回に限り、200,000円を上限に研究費の加算が認められています。

